

## 大学入学者選抜に関する実態調査について（概要）

- 大学入試のあり方について、エビデンスに基づいた検討に資するため、R2年度入試の選抜区分（一般、AO、推薦）ごとの選抜実態について総合的な調査を行う。
- 第6回の本検討会議での決定を踏まえ、7名の委員・大学団体の意見を踏まえて調査項目を設定。
- 各大学における回答のため、2か月程度の余裕をもった調査期間を設定（7月14日発出、9月14日回答期限）。

### <主な調査項目>

#### 1. 学部別調査

- 3つの方針、出題方針の策定・公表の有無
- 英語力、思考力・判断力・表現力をDP、CP、AP、出題方針に示しているか否か
- 選抜の妥当性・信頼性等についての検証状況
- 英語のS・W評価、入試における思考力・判断力・表現力の評価、記述式出題等についての考え方
- 入試方法別の募集人員の割合を今後どのようにしていく予定か

#### 2. 選抜区分の基本情報

- 選抜区分名
- 学部名、学科名・学科系統分類、コース名
- 入試方法（一般選抜、AO入試、推薦入試）
- 募集人員、志願者数、受験者数、合格者数、入学者数

#### 3. センター試験の利用

- 利用方法  
（例：センター試験のみで選抜、個別選抜と合算して合否判定、一定得点以上を2次試験受験資格として設定 など）
- 合否判定に利用する科目数
- 外国語の利用の有無（リスニングの利用有無）

#### 4. 個別選抜

- 選抜日程
- 出題科目名・科目数・配点（英語はS・W・R・L別の出題有無）
- 学力検査以外に考慮する資料等（調査書、面接、資格検定試験の成績 など）・配点
- 合否判定時の換算割合（センター試験得点、個別学力検査得点、それ以外）

## 5. 英語資格・検定試験の活用

※英語以外の資格・検定試験についても4. で調査

- 活用の有無、今後の活用予定
- 活用方法（例：出願資格、（センター・個別入試それぞれについて）加点、満点換算（みなし満点含む） など）
- 利用可能な資格・検定試験
- 複数の試験を活用する場合に比較・参照する方法（例：CEFR対照表、大学独自）
- 成績の有効期限
- スコアが提出できない場合の代替措置の有無・態様（例：スコア不要な選抜区分の設定、高校による能力証明、面接の実施 など）

## 6. 記述式問題等の出題

- 全ての教科科目等を対象に、枝間数ベースで出題形式の分類ごとに出題状況を把握（例：客観式、短答式・穴埋め式、短文、長文・小論文 など）

## 7. 入学者の多様性を確保するための取組

- 年齢、性別、国籍、家庭環境、障害等への配慮の取組・今後の方針

## 8. 自由記述欄

- 検討会議における検討課題への御意見
- ウィズコロナ・ポストコロナ時代の入試についての御意見
- 入試について抱えている課題意識

## <調査結果とりまとめのイメージ>

- 国・公・私立ごとに、一般・AO・推薦入試別に、募集定員に対する志願者数の割合、合格者数に対する入学者数の割合及び大学入試センター試験の利用割合を集計・分析
- 国・公・私立ごとに、一般・AO・推薦入試別に、学力検査の教科・科目数を集計・分析
- 英語資格・検定試験の活用状況については、国・公・私立ごとに、一般・AO・推薦入試別に、各調査事項の結果を集計・分析
- 記述式問題等の出題状況については、国・公・私立ごとに、一般・AO・推薦入試別及び各教科・科目別に、出題の類型ごとの枝間数の割合を集計・分析
- 自由記述意見については、内容に応じ分類し、主な意見を個別大学名が分からない形でとりまとめ・分析
- その他さまざまな形でのクロス集計・分析

など